

山行番 NO. 1557-1  
日時 2013. 07. 27~29  
山域 南ALPS北岳(3193m)~間ノ岳(3189m)  
参加者 後藤隆徳、浜道久美子、掛橋智美=3名

07月27日(土・晴)

下土狩17:00-甲府-御勅使川(みだいがわ)福祉公園19:30(テン泊)

07月28日(日・曇)

起床4:00-芦安バス発5:30-広河原発6:33-二俣8:36-小太郎尾根10:34-肩の小屋11:21-北岳12:12-北岳山荘13:17-間ノ岳15:10-北岳山荘16:10(泊)

標高差=上り 広河原約1529m~北岳3193m=約1664m

北岳山荘約2885m~間ノ岳3189m=約304m

日本第2の高峰が北岳という事だけで登ってみたいと単純で浅はかな考えの山行だったが、足応え?があり大変だった。2011年にL他7名で白根三山を縦走した時、サンライズの富士山の写真を見たことがある。それはとても美しい。自分も見れるかも!淡い思いを秘めて出発した。

テントで前泊した公園は乗馬コースもあり大変綺麗な公園だった。驚いたことは看板に「熊注意」本当かしら?気を付けながらの一泊になった。雨が降りそうな怪しい空だったが雨粒は落ちず、ひんやりした空気に睡眠もしっかり取れた。

28日早朝、マイカー規制のバスに乗車する為早々に出発。5時過ぎというのに芦安の駐車場はすでに満杯。前日から入山した人たちの車だ。それでも第4駐車場に駐車して、立席で1時間。広河原に到着。広河原山荘で「歩きながら覚える=北岳の高山植物」というB6程度の本を購入。Lはこの本の出版に少々関わったと言っていたが、「字が小さい、ページ数が見にくい」と文句を言っている。私も歩きながら覚えるには少々無理があるのでザックにしまう。

二俣まで2時間標高差694m 大樺沢沿いに上る。水の豊富な所だ。登山道にも流れ、沢を渡る所もある。傾斜のある登山道に石、岩がごろごろ。歩き難い。その傍らに、シモツケソウ、ウド、ヤマオダマキ、タマガワホトトギス、キツリフネ、ホタルブクロ、シナノナデシコ、クガイソウ、レイジンソウ、クサボタン。ミヤマハナシノブは少なく本格的は、これからだそう。

二俣近くなると急に視界が広がり北岳の山頂を仰ぐことが出来る。「今年は随分雪渓が残っている」とL。雪渓の上に乗ってみる。かき氷をがちり固めたような雪。靴で蹴り込んでみても咬みこまない。Lは私たち二人には無理と判断したようで、当初の予定の八本歯コースを断念。小太郎尾根から北岳に上る。二俣から小太郎尾根分岐まで2時間標高差580m。空はすっきりと青空だが、時々怪しい雲や霧が頂上をかすめる。

ルートが変わったが有難いことに、小太郎尾根分岐まで(通称草すべり)では見事なお花畑が見ることが出来た。ここは下から臨まないと見応えがない。北岳の山頂を背景にシナノキンバイ、サンリンソウ、ツマトリソウ、キバナノコマノツメ、マルバダケブキ、ミヤマバイケイソウ、ハクサンチドリ、ハクサンフウロ、タカネナデシコ。クルマユリは少

なかった。鹿の食害防止柵があちらこちらに見られるが、今年のお花畑は内側も外側も分からないくらいに盛んに咲いていた。楽しみながら歩けるいい所。

小太郎尾根分岐から肩の小屋まで、40分標高差210m。樹林帯も無くなり、岩場に咲く花と岩雲雀が盛んに鳴いている。チョウノスケソウ、ハクサンイチゲ、コケモモ、チングルマ、ツガザクラ、イワツメグサ、アオノツガザクラ、キンロバイ、ミヤマキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ミヤマダイコンソウ、シコタンソウ、イワベンケイ、オンタデ、タイツリオウギ、ハハコヨモギ、ヒメコゴメグサ、コイワカガミ、ミヤマオダマキ、オヤマエンドウ、チシマギキョウ。途中で出会ったLの知り合いの植物監視委員の方に教えて頂いた、タカネマンテマは南アルプス特産種で僅かに見ることが出来た。ラッキーだった。



凄なお花畑



肩の小屋



標高 3010mの肩の小屋で一息ついて、北岳まで一気に上る。標高差 183m。約 35 分。岩場には益々小さくて可愛らしい花が佇んでいる。ガスが掛かり、気温も低く寒くなってきた。遠くから見ると上部がつんと突き出ている鋭角な自己主張の強い山に見える。岩場をグイグイ登り切り山頂に到着。視界も悪く、景色を楽しめなかったことは残念だった。山頂をそこそこに、北岳山荘に向かう。北岳からの下りで「あの赤い屋根が山荘だよ」と教えられ、後少しと思うが、60 分掛かると聞き、愕然とする。甘いものではない。

吊尾根分岐まで 15 分 一気に下りる。そして、分岐から北岳山荘まで 40 分。北岳山頂から、北岳山荘まで 55 分標高差 309m。下るのは早いものだ。ガスの隙間から鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳を眺め、南アルプスの懐の深さを感じる。



バックは甲斐駒



美女に囲まれご満悦



深山苧環



北岳山荘に到着するやいなや、女子二人で目的の間ノ岳まで出かける。3時間位で往復できるとのことだ。Lに宿泊の手続き、荷物番をお願いした。

霧が掛かり始め、遠方まで良く見渡せない。荷物をナップザックに替え超軽量になり足取りは軽いが、いつも、Lの後ろ姿を見ながらの山行が二人きりになり不安がよぎる。Lの存在が神様ようだ。感謝をしながら、年上の私が先頭に行く。K嬢とは霧が深くなって、強風になったら引き返すことを確認して、13:35 出発。

しかし、よく考えると、霧の深さや風の強さの基準がよく分からない事に気がつき、どうしよう！下山してからLに報告をしたら、「霧が風に流れている時は大丈夫」とのことだった。経験は大切な財産だ。

何も知らない私たちは恐る恐る間ノ岳目指し歩く。すぐ前方の山しか見えないうらいの霧の状況、風もあり寒い。時折下山する登山客に出会う。「間ノ岳にいくのですか？頑張っ  
てね！」と言われ、とにかく3時間頑張らなければと思う。やや上り加減の登山道も厳しくない  
ので、スピードが上がる。20分過ぎた所で、前方に高い山が見え始める。もしかして、し  
かし、まだ30分も満たないのに。半信半疑で岩を上ると、10名位のグループがいた。一  
人の女性が「ま～だまだ。私たちも何度騙されたか！」と私たちの心を見透かして声を掛  
けてきた。ここは中白根山 3055mだった。やっぱり違った。甘くはない。時間から考  
えるとあと1時間は上らなければならない。間ノ岳はいったいどこ？

風も強くなってきて寒いのでヤッケを着る。稜線に沿って狭い登山道を歩く。下を覗くと足がすくんで身震いがするくらいの高さだ。強風で煽られたら命がないかもしれない。

霧の中に見える前方の山。あれかしら？いやいや後方にもうっすらと山が見える。すれ違  
う人皆に声を掛けてしまう。皆さん「まだまだ。」と答える。偽ピークが15以上。せめて  
霧さえなければそんなに間違えないとも思う。結局、1時間20分掛かり、間ノ岳 3189  
mに登頂。やれやれだった。山頂で地図を広げ位置確認をして、あちらに北岳が見えるら  
しいとイメージして、下山開始。人にやたら声を掛け、おしゃべりをしてしまうなんて、  
大和撫子らしからぬ行動に人間切羽詰まったら何でもしてしまう事に納得。

女子二人の珍道中。何やらLが心配になったらしくて途中までお出迎え。有難うござい  
ます。何とか北岳山荘まで1時間位で戻れた。これで、日本第4位の間ノ岳も制覇できた。



北岳山荘に下る



北岳山荘

間ノ岳頂上



山荘に入り、登山客の多さにびっくり。昨日は土曜日でもっと多かったようだ。山のシーズンで仕方がない。夕食の時間が決められているので、それまでに まずお疲れさんの缶ビール。夕食時は晩酌なんて言っていられない。短時間で済ませると、あとは暇。

二人で一つの布団の場合もあるようだが、今日は一人で一つの布団。なかなか大変な所である。Lのお顔の広さでまずまずのお部屋に宿泊できたのは有難かった。

明日は天気が悪いようだ。日の出は見えないと山荘のスタッフが言っていた。

07月29日(月・雨)

起床4:30-朝食5:10-山荘発5:44-北岳6:39-広河原9:32-バス10:20-芦安11:20-金山沢温泉下土狩16:00

標高差=上り 北岳山荘約2885m~北岳3193m=約308m

下り 北岳3193m~広河原約1529m=約1664m

朝からあいにくの天気だ。密かに願っていたサンライズは見れなくて残念。早々に食事を済ませ、レインウェアを着て出発。

朝一番、北岳への上り返しが厳しい。ゼイゼイと呼吸が荒く、心臓もフル回転。2回目の登頂だ！と気合を入れ1時間余り頑張る。昨日の足の疲れもなく、不思議だったが、何とかなるものだ。山頂に着くと、韓国の登山客でゴった返している。Lはすかさず、間をぬって駆け抜けるようにその集団を追い越し、下山道に行く。私たち二人も置いて行かれないように走って追いかける。その団体をすり抜けるように下山開始。その速さには驚く。追いついてよかった。そのお蔭で、ずいぶん早く下山でき、大幅に早いバスに乗れた。「雨の日は足元に気を付け出来るだけ早い行動をとらないと疲労するばかり」とL。

山行を重ねる度に色々な経験ができる。楽しいことはもちろんだが、今回の二人旅は最初不安だったが、お互いに協力し合っるととても良かった。単独でなく、チームで行動することは自分も成長できると思った。これからも山の仲間との山行を楽しみにしています。

Lに感謝。K嬢に感謝。有難うございました。

その他の記述(後藤)

1. 現在、広河原山荘は、塩沢さんの息子さんがやっている。



翌日は風雨



M嬢

芦安・S工設



2. この時期、大樺沢はアイゼンが必要。
3. 肩の小屋下で以前、交流のあった橿形町のM嬢と会った。相変わらず元気そうで何より。
4. 肩の小屋では現在、芦安の後輩S氏が経営のS工設がトイレを作っている。
5. 北岳頂上で久しぶりにクライマーを見た。四尾根をやったとのこと。
6. 北岳山荘には、昭和大学医学部の診療所があった。
7. 北岳山荘の配部屋は、13:17着でガラガラなのに、全く陽が入らない屋根が低い北側の部屋だった。遅く着いたなら仕方がないが納得できない。で、言いたくなかったが「芦安のSは弟子で後輩」と告げたら、南側のイイ部屋にしてくれた。配部屋は、誰でも納得出来る「到着順」にすべきだ。そのために頑張ってる訳だから。
8. 山荘の食事は15分でブロイラー並。食事は朝食の方がイイくらい。生ビヤは不味かった。
9. 帰路、芦安のS工設に寄った。S氏は不在だったが三男のK君と交流した。

以上